

「長屋門サミット」

— 長屋門の現状と課題を共有する —

つくば市には、200を超える長屋門が現存し、時を経ながらもほとんど減少することなく継承されています。一方、国内に目をむけると、つくばに匹敵する密度で長屋門が残る地域も少なからずあります。

今回のシンポジウムでは、各地で長屋門の保存・継承・活用等に携わる関係者がつくばに集まり、現状や課題等の発表を通し、課題解決にむけた糸口を見つける「長屋門サミット」を開催します。



栃木の長屋門*2



宮城の長屋門*1



愛知の長屋門*3



つくばの長屋門



日時 令和7年2月9日(日)
13:00~16:10

会場 古民家「つくばスタイル館」
つくば市学園南2-1 研究学園駅前公園内

つくば
建築
研究会

主催：NPO法人つくば建築研究会
共催：つくばまちなかデザイン株式会社
後援：茨城県、つくば市、つくば市商工会

入場無料
参加申込は
こちら⇒



メール、faxでの申込方法は裏面

プログラム

司会：NPO法人つくば建築研究会 副理事長 永井 正毅

1. 主催者挨拶

NPO法人つくば建築研究会 理事長 坊垣 和明

2. 講演 13:10~15:20

(1) 「渥美半島自然対応型の長屋門」

筑波大学名誉教授 小場瀬 令二

(2) 「宇都宮の長屋門～中世宇都宮氏の遺産？」

宇都宮大学名誉教授 三橋 伸夫

(3) 「陸前地方の長屋門」

東北工業大学教授 大沼 正寛

(4) 「つくばの長屋門ともん泊・みちあるき」

つくば建築研究会理事長 坊垣 和明

(5) 「長屋門を残す、再生の実践」

つくば建築研究会理事 塚本 康彦

3. 主賓挨拶

つくば市長 五十嵐 立青

4. パネルディスカッション 15:25~16:10

「長屋門の活用と継承を考える」

【ファシリテーター】 永井正毅

【パネリスト】 五十嵐立青、小場瀬令二、三橋伸夫、大沼正寛、坊垣和明、塚本康彦

5. 閉会



会場の「古民家」は、つくば市古来の旧豊島家住宅を現地に移築した古民家再生住宅です。
<https://ibanavi.net/shop/9590/map/> アクセス：TX「研究学園駅」より徒歩2分
公園内に駐車場(65台：有料)あり。近隣のつくば市役所駐車場等もご利用下さい。



申込み方法：シンポジウムにご参加を希望される方は、「ご氏名(ふりがなとも)、Tel.、e-mail、参加人数」を、メール (info@tsukuba-arch.org) またはFax.(029-886-8035)で研究会にお送りください。

*頂いた個人情報は、本シンポジウム運営の他、つくば建築研究会の業務(刊行物等の発送、イベント情報発信など)において活用させていただきます。第三者への提供・譲渡を禁じ、外部への流出のないよう管理いたします。ただし、法令の定めるところにおいて、必要が生じた場合は、この限りではありません。

各地の長屋門の出典

*1:日本建築学会大会学術講演梗概集(関東) 2015年9月「在家空屋・長屋門を活用した農村技術継承と転入定住促進」

*2:日本建築学会大会学術講演梗概集(九州) 2016年8月「栃木県における農家長屋門の保存と活用について—文化財指定・登録の長屋門を中心として—」

*3:町のかたち村のかたち-日本の町並み、集落景観の図解サイト-愛知県中山